農政連情報

みどりの風

2018（平成30）年 July vol.342

今月の表紙

アジサイで彩る棚田（撮影：川口　泰雄様）

第６回「がんばろう熊本　未来に伝えたい農業・農村の風景」フォトコンテストで、入選された方の作品の中の１点です。

■ TPP11 承認案衆議院通過
■農林年金廃止法成立
■熊本県農協青壮年部協議会　第 63 回通常総会開催
■ＪＡ熊本県女性組織協議会　第 65 回通常総会開催
■参議院議員藤木しんや氏コラム
■参議院議員山田としお氏コラム
■ガンバッテます
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

明治維新から１５０年となる今年から始まったＮＨＫ大河ドラマ「西郷どん」。大久保利通、木戸孝允（桂小五郎）らとともに明治維新の三傑と呼ばれる西郷隆盛は、貧しい下級武士の家に育ち、生家は農業で生計をつないでいたという。

その西郷隆盛は、重税に苦しむ農民の窮状を憐れみ、その減額を役所に嘆願したり、薩摩藩の農政に関する建言書をはじめ、明治期に入っても「勧農建言書」を明治政府に提出するなど、愛農精神を持っていた。

その考えは『南洲翁遺訓』の中で「政の大体は、文を興し、武を振ひ、農を励ますの三つにあり」と、政治の根本は教育振興、軍事強化、農業奨励とし、その続きには、この三つを後にして他の政策を先にしてはならないとまで書き記されている。

この南洲翁遺訓の一節を自民党の会合で森山裕国対委員長が用い「農に対して感謝の気持ちを忘れてはならない。農は励まさなければいけない」と発言、さらに同党の竹下亘総務会長は「何が何でも田舎を守る。経済合理性だけで割り切れない」と、市場原理偏重を牽制している。

これは、政府の規制改革推進会議等を意識しての発言とも思えるが、国連における世界の食料の８割の生産を担う家族農業が重要とした「家族農業の10年」にも考え方が重なると思う。

西郷隆盛が残した金言に学び、国の礎としての農業の振興にひたむきに尽力する気骨ある政治家が増えることを願いたい。

発　行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町２－３　電話 096-328-1284　編集責任者　中村　隆宏
発行日／平成 30 年６月 15 日・毎月１回 15 日発行
定　価／１部 50 円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）

TPP11承認案衆議院通過

▲TPP関連法案を採決した衆議院本会議（日本農業新聞提供）

11カ国による環太平洋連携協定の新協定（TPP11）の承認案が5月18日、衆議院本会議で与党などの賛成多数で可決され、参議院に送付されました。憲法の規定で参議院の議決がない場合でも、30日後に自然承認となるため、6月20日までの今国会での承認が確実となります。

TPP11は6ヶ国以上が国内手続きの完了を通知してから60日後に発効されます。日本の場合、国内での承認手続きを完了させるには、協定の国会承認に加えてTPP11発効で影響を受ける農業向けの支援策などを含む関連法案の成立が必要です。関連法案には衆院通過後、30日で自然成立するルールの適用はありませんが、23日の衆議院内閣委員会で、TPP11関連法案を与党などの賛成多数で可決し、24日に衆議院を通過しました。そして、6月1日には、承認案と関連法案が参議院本会議で審議入りしています。

4月下旬にはメキシコが国内手続きを終えており、日本は2ヶ国目となる見通しです。オーストラリアやニュージーランドが議会手続き中でシンガポールやベトナム、チリも前向きです。このような動きから6ヶ国が国内手続きを終えた場合、早ければ年内にも発効となる可能性があります。

また、タイが5月に参加の意向を表明したほか、コロンビアや英国、韓国なども参加に関心を示しています。

なお、安倍晋三首相は5月7日の衆議院内閣委員会で「農家との約束がある。農業分野でこれ（TPP）以上の譲歩はない」と述べています。さらに8日の衆議院本会議では「（日米の新たな貿易協議は）日米貿易協定（FTA）交渉と位置付けられるものでなく、その予備協議でもない」と発言しています。

農林年金廃止法成立

JA役職員らが対象の農林漁業団体職員共済組合（農林年金）の早期解散に向けた、改正農林年金廃止法が5月18日の参議院本会議で全会一致にて可決、成立しました。農林水産省が今国会に提出した9法案のうち、3法案が成立したことになります。

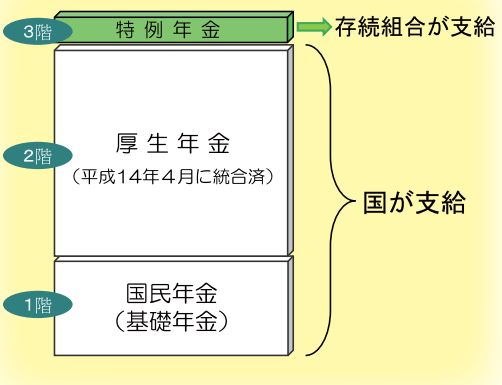
改正農林年金廃止法の成立を受け、農林漁業団体職員共済組合（存続組合）は今後、年金給付に代わる特例一時金を全対象者に確実に支払うため、全力を挙げるとしています。

農林年金は昭和34年に発足後、平成14年に厚生年金と統合し、将来的に廃止が決まっていました。平成22年に、将来の年金の受給相当額を一時金で受け取れる仕組みを選択制で導入していましたが、改正法では、年金での給付を完全廃止し、年金をもらえる年齢に達していない人も含め対象者全員が一時金として受け取ることになります。一時金の選択率が平成28年3月末までに86％に達したことを受け、存続組合や農林漁業団体、受給者団体は法改正を要請していました。新たな加入者がおらず、掛け金収入が望めないため、制度が続くほど運営費がかかります。

対象者は70万人以上に上りますが、まだ年金をもらってない人は、存続組合に請求書の提出が必要になります。既に年金を受給している人は、請求書は不要です。

一時金の受給資格は、法律の施行後5年間で時効となるため、存続組合はこの間の確実な支払いを進めなくてはなりません。平成9年の基礎年金番号制度の導入までは、受給者の住所を管理する仕組みがなく、同年以前に退職するなど、受給資格があるのに住所が分からない人が約4万3000人ほどいます。受給漏れを防ぐため、存続組合やJAなどは住所の特定が必要になります。こうした作業にかかる期間の確保なども踏まえ、施行日を決めることとなります。

国会審議では、衆参両院の農林水産委員会で、受給漏れを防ぐために、制度変更について「十分な周知徹底を図ること」を求める付帯決議を全会一致で採択しました。



熊本県農協青壮年部協議会
第63回通常総会開催

▲あいさつする前本委員長

熊本県農協青壮年部協議会は5月10日、JA熊本経済連7Fホールで第63回通常総会を開き、県内盟友や関係者ら約80名が出席しました。

あいさつに立った前本勝委員長は「農業・JAを取り巻く環境が大きく変化している。現在、農協改革に関する自己改革集中推進期間中であるが、今後、さらなる改革を迫られる可能性がある。盟友一人ひとりが、自分たちのJAであるということを強く認識し、JA運動に参画することが重要だ。自己改革に関しても、JAグループがやるべきとの意識があるが、JAは我々組合員のものであり、より利用しやすくするための改革でなければならない。JAグループと一丸となって取り組んでいく。」と述べました。

総会では、平成29年度事業報告並びに収支決算書、平成30年度事業計画並びに収支予算書（案）など、4議案を提案し全て承認しました。

また、ポリシーブック（青壮年部政策提言集）の更新・活用を行い、多方面への農業政策活動を展開するために、県選出国会議員への要請や熊本県農林水産部等との意見交換会を継続・強化するとともに、JAグループ及び全青協・九青協と連携しながら農政運動をより積極的に実践していくとしています。

最後に、JAグループの一員としてJA運営に積極的に参画し、地域農業の振興を目指すJAの自己改革を支援していくとした特別決議を読み上げ、参加者全員の拍手をもって採択しました。

▲JA青年組織綱領を唱和する盟友ら

JA熊本県女性組織協議会
第65回通常総会開催

JA熊本県女性組織協議会は5月14日、合志市で第65回通常総会を開き、部員ら約110名が出席しました。熊本地震からの復興支援やJA自己改革を後押しする運動などを盛り込んだ平成30年度の活動計画など4議案を承認しました。

平成30年度の重点活動は①3カ年計画の着実な実践②食と農の活動で地域を元気にする③仲間づくりを進め次代のリーダーを育成する④JAへの運営参画をすすめるーを掲げます。また特別決議では、JAの自己改革を支援し、JAと地域をつなぐ架け橋となり「住みよい地域社会」づくりを目指すことを採択しました。

同協議会の上村悦美会長は「現在、政府からは総合事業を行うJAの根幹を揺るがすような非常に大きな問題が突き付けられている。私たち女性部も、JAの自己改革が、真に組合員による組合員のための改革となるよう、JA運営に参画し全力で取り組みたい」とあいさつしました。

総会後は、女性組織リーダー・事務局合同研修会が開かれ、日赤熊本健康管理センター名誉所長の小山和作氏が「農村医学から予防医学へ～女性部に期待するもの～」と題して講演しました。また、JA熊本中央会・連合会の地域くらし広報部より、「JA健康寿命100歳プロジェクト」を紹介し、同プロジェクトの一環として「JAてんとうムシ体操」を参加者全員で行いました。

▲女性組織協議会代表としてJA共済連熊本・農林中央金庫熊本支店から表彰を受ける上村会長

▲退任役員表彰を受ける寺本前女性協会長㊥と前任役員の皆さん

全国農政連推薦・県農政連公認

参議院議員藤木しんやの 永田町でも 百姓宣言

「美しい田園風景は見えているのか」

【規模拡大が経営のすべてではない】

「規模拡大を続ける農業者だけが優れた経営者ではない」と、農林水産省の担当者に申し上げたことがあります。農業の成長産業化というなかで、経営感覚をもった農業経営者とは大規模農家や法人であり、そうした担い手を増やしていかなければ日本の農業は世界に通用しないのではないか。こうした誤解が、国政の議論に根付いているように感じたからです。

「農業は国の基。美しい田園風景を守るため、万全の処置を講じる」。この言葉は、太平洋戦略的経済連携協定（ＴＰＰ）交渉が大筋合意に至った時に安倍総理大臣が記者会見で自ら発した言葉です。

残念ながら東京永田町では、本当に現場の声が議論の前提として汲んでもらえているのか疑問に思うことがあります。

【食文化の継承も農業の多面的機能】

農政を語っていく上で、どうしても農業の果たす多面的機能という話になります。水田の果たす水の涵養が代表的に取り上げられますがそれだけではありません。

私は、食の尊さを次代へ継承していくことも農家の方々が担っている立派な多面的機能と考えています。今、和食が世界的なブームになっています。田舎料理のなかで引き継がれてきた食文化が海外でも評判を得ていることは注目されるべきでないかと思います。

【農業ワーキンググループ始動】

「規制改革推進会議」という言葉を何度口にしたでしょうか。４月、５月と同会議の農業ワーキンググループが開催されました。農協改革のフォローアップに着手するための会合です。

現在の総合事業のカタチを作り上げてきたのは、疑いもなく組合員です。自己改革の完遂が基本です。

農業は「地域」を無視して成長することはできません。農業経営は「地域」とは切っても切り離せない関係にあります。そして、農業を多様な人々が生業としてきました。こうして美しい田園風景が維持されてきました。この原点を忘れずに私も頑張ります。

▲参議院農林水産委員会の様子

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの 農政問題に斬り込む

「地域の農林水産業振興促進議員連盟で生源寺教授からヒアリング」

４月に開催した第２回総会で、食料・農業・農村政策審議会の会長等を歴任された福島大学の生源寺教授より、現下の農政に対する問題提起と危機感をご披瀝いただいたので、その内容を紹介します。

【ここ20年で、大きく振れた農政】

ここ20年で大きく振れたことの１つは、農政の進め方が、農水省からではなく、規制改革推進会議等から一方的に提起されることとなり、食料・農業・農村基本法の路線から外れてしまったことだ。

とりわけ、政策の振れが著しいのは、担い手に対する政策であり、自民党の経営所得安定対策を、選別政策と批判していた民主党が勝利する中で、戸別所得補償制度を導入したことにはじまり、コメの生産調整の問題や、農地制度をめぐる政策の転換など、政策の目まぐるしい振れが続いた。

【法律に基づかない政策転換が進む問題】

農政の進め方で、次に大きなことは、わが国の政策が、予算措置や行政指導により推進されるようになってきたことだ。この点は、法律に基づいたＥＵなどの農政推進とは対照的であり、コメの生産調整は、食糧法に明記されているにもかかわらず、予算措置と行政指導だけで、今、まさに進められている。

【規制改革推進会議による単純極まりない農協攻撃】

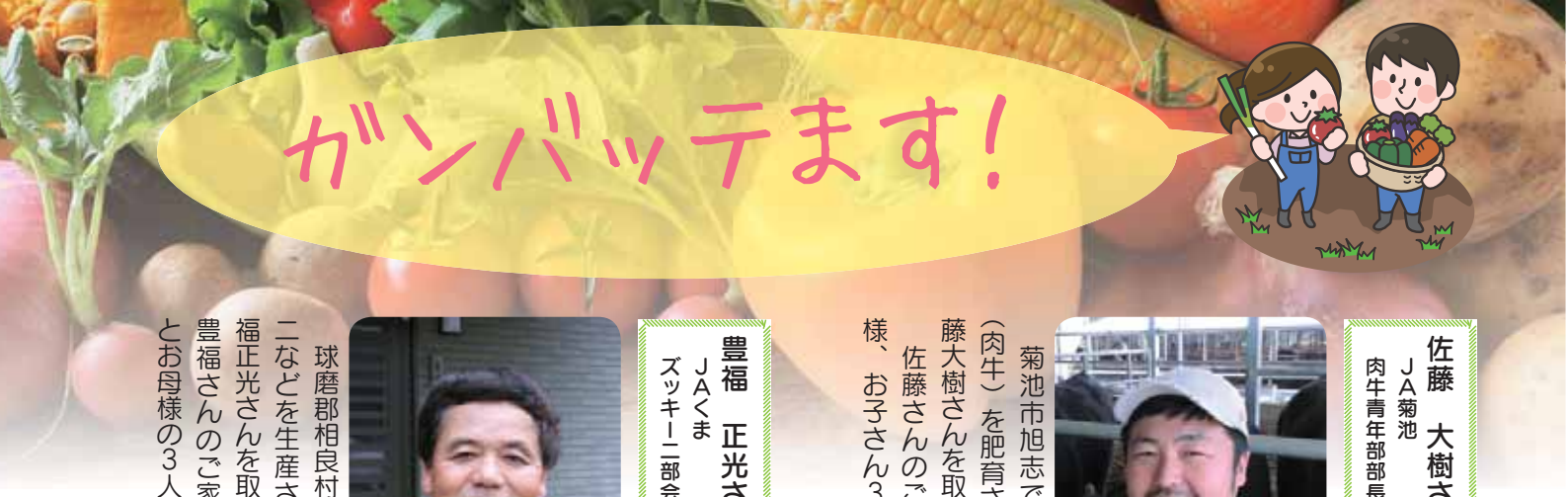
次に、農協改革について、農協としての３つの顔、①協同組合としての農協、②制度や政策に対する強い影響力を行使する農協、③農政の実施過程に関して現場で農政を支え、行政に頼りにされる農協について、それぞれの役割について整理が必要なのに、ひっくるめて農協は悪いのだというのは、いささか単純すぎる。

協同組合の目的を国が定めるというのは、自主・自立、組合員による民主的運営といった協同組合の原則から逸脱している面があると思う、と述べておられる。

【一度立ち止まってゆっくり考えるべきと提言】

最後に、規制改革推進会議からの提起について、その多くは、短期的な成果主義と成果誇示のスタンスが強いのではないのか。政策が目指すビジョンの具体像や検討プロセスに関する対外的な説明が不十分だ、と指摘。その上で、「一度、立ち止まってゆっくり考えてみようということが必要な時期に来ているのではないか」と述べられた。

私も全くの同感であり、先生の提言をしっかり活かすべく、全力を挙げます。



ガンバッテます！

佐藤　大樹さん
JA菊池
肉牛青年部部長

菊池市旭志で、黒毛和牛（肉牛）を肥育されている佐藤大樹さんを取材しました。

佐藤さんのご家族は、奥様、お子さん3人（上二人は双子）、ご両親の7人家族です。

●就農について

佐藤さんは、熊本市内の大学卒業前に大病を患い入院。就職戦線に乗り遅れ、実家の畜産を手伝ううちに、そのまま就農となりました。

幼い頃から両親の大変さを見て育ち、家業を継ぐつもりはなかったという佐藤さん。好きな機械いじりの道へ進みたいことから工業大学へ進学し、畜産については全くの素人からの出発でした。

現在は、ご夫婦とご両親の4人で、黒毛和種肥育190頭、繁殖母牛14頭を肥育されています。

●就農して辛かったこと

「2年前の熊本地震で被災したことです。80頭規模の牛舎が1棟潰れました。JA菊池管内で18頭の和牛が死にましたが、うち9頭はうちの和牛です。

また、出荷先である（株）熊本畜産流通センターも被災し、出荷したいのに出荷できないもどかしさに、やり場のない憤りを覚えました。」

●今後の抱負と将来について

「牛舎の規模拡大です。また、息子が3人いるので、誰かが後継者として育ってくれたら嬉しいです。」

●恵まれた環境

「自分は、恵まれた地域で畜産に携われました。一人勝ち抜けと考える人や、人の足を引っ張る人はいません。みんなで教え合い、力を合わせて良い和牛を育てています。自分もまだまだ勉強中。わからないことは、はずかしがらずに先輩に聞いています。

また、旭志支部には黒毛研究会があり、毎月支部の誰かが大阪へ行き視察、その報告を兼ねて勉強会をしています。」

●最後に一言

「和王」美味しいですよ！たくさん食べてください!!

好きな言葉は「一生懸命」。自分達が丹精込めて育てた和牛を、美味しいと言ってもらえることが嬉しいという、シャイな中に面白さを感じさせる佐藤さんでした。

豊福　正光さん
JAくま
ズッキーニ部会　部会長

球磨郡相良村で、ズッキーニなどを生産されている豊福正光さんを取材しました。

豊福さんのご家族は、奥様とお母様の3人家族です。

●就農について

豊福さんが就農したときは、米の減反が始まった頃です。メロンやスイカが市場で流行り始めたこともあり、米だけでなく、メロン栽培もする約束で、実家での就農となりました。

現在は家族3人で、ズッキーニ11㌃、アンデスメロン25㌃、種取玉ねぎ22㌃を栽培されています。

●就農してつらかったこと

「やはり、17～8年前の大型台風ですね。熊本県全体で大きな被害があり、メロンが全滅しました。あと少しで出荷できるときにハウスが倒壊し、精神的にも金銭的にも、本当につらかったです。それから何年も台風による被害が続いたこともあり、メロン栽培を一旦辞めました。」

●将来への思い

「ズッキーニは、7～8月の暑すぎる時期以外は栽培でき、春と秋の収穫になります。

昨年度のJAくまでのズッキーニ栽培農家は約130戸です。もっとズッキーニの需要が伸び、熊本県全域に、ズッキーニの栽培が広がり、熊本県全体でズッキーニ栽培を応援してもらいたいですね。熊本といえば〝ズッキーニ〟と言えるほどになれば嬉しいです。」

●「ズッキーニ」おすすめの食べ方は

「おすすめは『ズッキーニとこま切れ肉の炒め物』です。油との相性が良く、肉の旨味とマッチして美味しいですよ。調味料は、ご家庭で好きな味付けにしてください。

また、ズッキーニは、生でも食べることができます。食感もよく、好きなドレッシングで召し上がってください。」

●最後に一言

生でも、火を通しても美味しいズッキーニです。ぜひ、いろんな料理をアレンジして、たくさん食べてください!!

好きな言葉は「努力」。農業は、定植から収穫までを自分で見ることができることが楽しいと、嬉しそうに語る豊福さんでした。

JA 中央会

「未来塾」を開講・JA熊本中央会　教育センター

～新戦略生かし自己改革推進～

JA熊本中央会は5月10日、合志市のJA教育センターでJA戦略型中核人材育成研修「未来塾」の開校式を開きました。農業・JAを取り巻く環境変化に適応し、かつJAが自己改革を進めるために、その運営を担う中核となる人材の育成を図ります。

県内JAや連合会で選抜された15人が入校しました。平成16年度から毎年開講し、修了生はこれまで14年間で196人に上ります。

尾方孝司所長が「JAグループは3つの基本目標『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』の実現に向けて自己改革に取り組んでいるが、これらの実現には、職員の企画力・新しい戦略眼が重要。この研修を通して学んだことを現場で具体的に実践し、JA自己改革の先頭に立って、次代のJAグループを担ってほしい」とあいさつしました。代表してJAあしきたの森創（はじめ）さんが決意を誓いました。

同塾受講生は、JAにおける組織活動活性化の検討やプロジェクトマネジメントの基礎を学ぶなど、来年1月までに合計10回、延べ25日間受講します。また、講義終了後には、受講生自らが自JAの経営戦略等を考え発表する「修了レポート発表会」が予定されています。

▲決意表明をするJAあしきたの森さん㊨と参加者たち

▲JA 綱領を唱和する塾生ら

JA 経済連

平成30年度農作業安全運動出発式

～農作業事故ゼロ目指す～

JA熊本経済連と熊本県JA農機自動車技術指導士会は5月上旬、同経済連ビル前駐車場でJAグループ熊本平成30年度農作業安全運動の出発式を行いました。

JAや連合会役職員、熊本県などから約150人が出席し、農作業事故防止に取り組むことを誓いました。

運動では、年間を通じて県内の農家組合員へ事故防止の呼びかけを行います。同経済連の加来誠一会長は挨拶で「農家組合員の安全意識向上のためにも、農作業安全講習会等の開催を行っている。5月と9月の約2ヶ月間を特別推進期間と定め、県内全域を巡回し、呼びかけを行い、組織を挙げて事故の撲滅に取り組んでいく」と決意を新たにしました。

全国では毎年300件近くの死亡事故が発生し、8割がトラクターによる事故となっています。

県とJAグループ熊本は、関係機関と連携を進め啓発活動を強化します。

「農作業事故ゼロ」を目指し、農作業安全広報用のチラシ5万枚を用意しました。また農作業安全には、家族や仲間からの「声かけ」運動をする事により事故が減ります。農繁期を迎え、安全な農作業への更なる意識向上が求められます。

▶職員らに見送られて出発した広報車

JA 共済連

平成30年度 JA共済全国小・中学生書道コンクールおよび交通安全ポスターコンクールを開催します！

JA共済では今年もJA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールを開催します。今年で書道コンクールは62回目、交通安全ポスターコンクールは47回目を迎えます。当コンクールはJA共済が地域貢献活動の一環として毎年行っており、小・中学生の書写教育の貢献と交通安全思想を広めることを目的としています。

平成29年度の書道コンクールには県下の小・中学生の皆さんから3万270点の作品の応募があり、交通安全ポスターコンクールには1786点にもおよぶ作品が寄せられました。小・中学生の皆さん、ぜひこの夏に取り組んでみませんか。

熊本県大会で特別賞に輝いた作品は全国大会に出品し、全国大会でも優秀な作品に選ばれた際は東京での表彰式にご招待します。

皆さんの夢・希望に満ち溢れた作品をお待ちしております。

詳しくはお近くのJA窓口もしくはJA共済くままもとのホームページをご確認ください。

JA共済くままもとホームページ
URL：ja-kyosai-kumamoto.com

【平成29年度熊本県知事賞作品】

▶宇土市立住吉中学校3年
伊藤　清奈さん（応募当時）

▶益城町立木山中学校2年
守住　唯さん（応募当時）

▲宇城市立豊福小学校5年
水野　心美さん
（応募当時）

【平成29年度農林水産大臣賞作品（全国大会）】

▶玉名市立小天小学校2年
坂本　きよみさん（応募当時）

JA 経済連

キャベツ収穫機実演会開催
～加工・業務用野菜の拡大と労働力軽減に向けて～

JA熊本経済連は、5月中旬、農機メーカーの協力のもとキャベツ収穫機の実演会を開催しました。昨年11月に引き続き2回目の開催となり、需要が高まる加工・業務用向け野菜の拡大と高齢化の進展により深刻化する労働力不足の解消に向けた省力化機械の提案で、生産者・JA職員・県職員・メーカーなど約40人が参加しました。

この日は生産者圃場での実演会となり、メーカー担当者の実演の後、JA職員も自ら機械に試乗し収穫作業を行いました。試乗したJA職員は「運転そのものは慣れれば大丈夫。労力負担軽減につながる期待が大きい」と話しました。

同経済連の販売担当者は「課題である労力軽減に向けて関係機関との連携を深め、県内産地のリレー出荷による周年供給体制を構築し、信頼される加工・業務用野菜の産地化を進めていく」と意気込みを語りました。

使用時説明の様子

▲キャベツの収穫機に試乗するJA職員

JAからご家庭へ
ふれあい食材
JA FOODS DELIVERY SERVICE

“JAふれあい食材宅配”をお知り合いの方、ご近所の方にご紹介下さい♪

ご紹介キャンペーン

キャンペーン期間中に【新規ご加入いただいた方】と【新規会員をご紹介くださった方】にいずれか一つご希望の商品をプレゼント!
平成30年4月1日(日)～6月30日(土)

A

味付ハンバーグ
冷凍《 110g×4コ 》
ふれあい食材で大人気の味付ハンバーグです。味付け済みなので、解凍して焼くだけで手軽にジューシーなハンバーグが出来上がります。
その他に一口大に丸めてミートボールにしてもおいしくお召し上がりいただけます。

B

エビフライ
冷凍《 4尾 》
ふれあい食材で大人気のエビフライです。こだわりの原料、衣、製法で作り上げた一品です。
冷凍のまま、カラッと揚げてお召し上がりください。

C

(エ)冷凍うどん
冷凍《 2食×2 》
ふれあい食材で大人気の冷凍うどんです。冷凍麺ならではのモチモチ感とコシをお楽しみいただけます。
お肉やあげ、卵、ネギなどお好みの具材をトッピングしてお召し上がりください。

※ご希望の商品は新規加入者が1ヵ月以上ご利用された場合、お届けいたします。

Hug
ココロとカラダを育むマガジン
vol. 24
ぜひご覧ください!!

特集：おいしい「あか牛」のヒミツ。
つくって優しい、からだに優しい優ごはん
今月のテーマは「あか牛とピクルス」

入院、手術、先進医療にも
備えられる充実保障。

なないろデザイン
医療共済

くらしの保障、相談するなら
JA共済

●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス　http://www.ja-kyosai.or.jp
18481050131

あとがき

毎日の仕事や家事、育児など全ての事に完璧な方は、多くいらっしゃいます。心に余裕がなく、完璧にこなせない私は、仕事で手抜きすることはできず、かと言ってどこかで手抜きしないと・・・と、どうしても家事や育児で手を抜いてしまいます。

4月から、子供のお弁当を毎日作ることになりました。最初は、頑張って全て手作りしていましたが、早起きが苦手な私はだんだんと起きる時間が遅くなり、それに伴いおかずを作る時間がなくなりました。そして「チン・チン・チンッ」と冷凍食品（冷食）に頼ることに・・・。冷食が続くのもかわいそうに思え、心に余裕あるときは、前日夜に作り置きします。

そんな私の楽しみは、録画しておいたテレビドラマを週末にゆっくり見ること。そして、年に数回ですが、コンサートへ行くことです。

皆さんも日々たまった何かを発散していますか？たまった何かを出さないと、新しい何かは入ってきません。

たまには、全ての事を忘れて、リフレッシュしてみてはいかがでしょうか？

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。
連絡先　熊本県農業者政治連盟
JA熊本県会館10階
（電　話）096-328-1284
（FAX）096-326-5807